

(第6条関係) 事業概要書

事業名	大学地域協働プラットフォーム事業
団体名	まつど大学地域協働推進委員会
事業担当課	政策推進課

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>少子高齢化、人口減少が進み、労働力人口の減少による税収減などによる行政サービスの維持が課題となる中、若年層（20代～30代）に期待される、地域経済の担い手としての役割が益々重要になっている。また多様化する地域課題の解決には、高度な専門知識を有する大学や学生の潜在力の活用は欠かせない。しかし、大学と地域の協働による事業の推進には、以下のような課題がある。</p> <p>① 大学側も地域活動に対して積極的な取り組みを行っているところではあるが、あくまで大学としての取り組みが中心で、学生や市民、行政など、直接的利害関係者が、主体的、能動的に取り組むためのフラットな組織づくりが十分にされていない。</p> <p>② 知識偏重ではない実学を伴う人材育成が大学に求められる中で、学生の実践の場が必要になってきているが、身近にある地域社会を活かした教育プログラムは一部の学生が参加する個別の事例に留まっている。</p> <p>③ 市内に通う大学生の内、市外からの通学者や地方から上京してきた学生は、地域との関わりが希薄であることが多いため、松戸に対して単に大学に通うだけの街の印象しかなく、場合によっては駅前の雰囲気からあまり良くないイメージを感じている事もある。</p>
<p>事業の目的</p>	<p>① 行政、大学、地域が連携し、様々な地域社会のニーズに対して、互いの資源を提供しながら事業を継続して行う場（協働プラットフォーム）を作ること。また地域の課題に多角的な視点で取り組み、具体的な課題解決を図ること。</p> <p>② 地縁組織・地元商店・市民活動団体などを含めた、地域社会全体が活動の場となる教育プログラムを、大学と地域全体で作上げ共有すること。</p> <p>③ 教育プログラムの実践を通して、学生が市民との交流や松戸市の魅力に触れる機会を作り、将来の地域の担い手を育成すること。</p>
<p>事業内容</p>	<p>新産業の創出、地域福祉、教育、景観、観光など、地域で顕在化している課題やニーズに対して、行政・大学・地域の協働により以下の事業に取り組んでいく。</p> <p>① 行政・大学・地域の協働を企画運営するメンバーによる話し合いの場として、有志を募り意見交換会を実施する。ここでは事業の運営方針の検討、地域社会のニーズや課題の共有、プロジェクトのテーマ選定など運営全般に関わる。（年3～4回実施）</p> <p>② 行政・大学・地域の協働をテーマとした講演会を実施する。大学関係者や大学生、市民を対象として幅広く告知し、先進的な事例から学ぶと共に、産官学民の連携に向けた交流の場づくりを行う。（年2回）</p> <p>③ 委員会の中で決定したテーマ毎に地域の課題解決を目的としたプロジェクトを立ち上げ、推進する。それぞれ各大学から学生の参加を募り、アクティブラーニング（主体的に問題を発見し解を見出す能動的学修法）の手法を使い事業を実施する。（年2～3事業）</p> <p>○ プロジェクト例：</p>

	<p>○ プロジェクト例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々縮小してしまっている町会や子供会などと連携した事業 ・地元の商店街と協働で地域活性化をねらいとしたお祭りやマルシェ事業 ・孤立化が進んでいる団地の高齢者などを対象としたサロン事業
協働の必要性	<p>① 松戸市では、聖徳大学及び千葉大学と包括的な連携に関する協定を締結している他、産官学連携の懇談会や大学コンソーシアム東葛などに取り組んでいる。本事業の実施にあたり、これらの基盤を活かすことで地域での具体的な事業の推進につなげることができる。</p> <p>② 行政が把握し得る様々な地域社会のニーズやデータなどの情報の収集ができ、また行政内の複数の部局にまたがる課題において事業を進める場合、その窓口を一本化することで効率化が図られる。</p> <p>③ 行政だけでは取り組みづらい地域との連携に対して、地縁組織やNPOといった民間のネットワークを活かすことで、実践の場を作ることができる。</p> <p>④ 若者の社会参画やプログラム作りに経験やノウハウのある団体も当会に属しているため、学生にとって学びと成長のある事業のコーディネートをすることができる。</p>
事業の目標	<p>本事業の実施を通して、大学や学生の力を活かした地域課題の解決を目指し、また松戸に愛着を持ち、将来松戸に住んだり働いたりしたいと思う若者を増やすことを目標とする。</p> <p><2016年度の成果目標></p> <p>① 千葉大学、聖徳大学、流通経済大学の三校からそれぞれ地域連携に関わりのある方に参加していただき、アクティブラーニングを取り入れた教育プログラムの開発を行う。 【プロジェクトの実施数：2～3事業】</p> <p>② 各プロジェクトの実施にあたり、行政担当者、地縁組織、市民活動団体などから構成されるワーキンググループを編成し、学生メンバーを募集して事業に取り組む。 【学生の参加者数：延べ20名】</p> <p>③ プロジェクトに参加することで、学生の「社会人基礎力」（経済産業省が提唱している能力を参考とする）と、松戸に対するイメージ（愛着）の向上を図る。 【指標：学生に対するアンケートの実施によって検証する】</p> <p>※項目例</p> <p>○社会人基礎力…「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」</p> <p>○松戸に対する愛着「シビックプライド」…街をより良い場所にするために、自分自身が関わっているという、当事者意識に基づく自負心。街に対して理解する、共感する、アイデンティティを感じるなどの項目が挙げられる。</p> <p><2017年度以降の目標と展望></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2年目…大学のカリキュラムとの連携を積極的に図り、学生が授業の一環として取り組めるように体制づくりをする。また大学の予算枠を確保できるよう提案していく。 ● 3年目…改善点を精査し、より充実した事業活動を目指す。また本事業を通して、大学生が地域社会に溶け込み、安心して市内企業への就職や市内での起業が出来るよう、就業支援に取り組む。

(第6条関係)

事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科目	金額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 292,500	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	金額	積算内訳
団体	イベント参加料	¥ 30,000	講演会参加費（年2回） 1000円×15名×2回
	団体拠出金	¥ 20,000	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 50,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 268,000	
	合計額(D)=(B+C)	¥ 318,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 60,000	外部講師謝礼 30,000円×2回
	印刷製本費	¥ 55,000	チラシ印刷 5円×5000枚 プログラム冊子印刷 60円×500部
	消耗品費	¥ 20,000	資料用コピー用紙 2円×1000枚 プリンタインク代 1000円×3個 筆記用具 15000円×1式
	使用料	¥ 38,000	会場使用料 500円×4時間×15回 1000円×4時間×2回
	通信費	¥ 125,000	事業の告知用ホームページ作成料 125000円×1式
	対象経費の合計(E)	¥ 298,000	
(その他経費)	食糧費	¥ 5,000	お茶菓子代 2500円×2回
	交通費	¥ 15,000	学生スタッフ交通費 500円×30人分
	その他経費の合計額(F)	¥ 20,000	
	合計額(G)=(E+F)	¥ 318,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	協働に向けた意見交換会	30,000 円	5 人 × 3 h × 4 回 × 500 円
	プロジェクト打ち合わせ	112,500 円	5 人 × 3 h × 15 回 × 500 円
	プロジェクト活動	150,000 円	5 人 × 3 h × 20 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
	合 計 (A)	292,500 円	